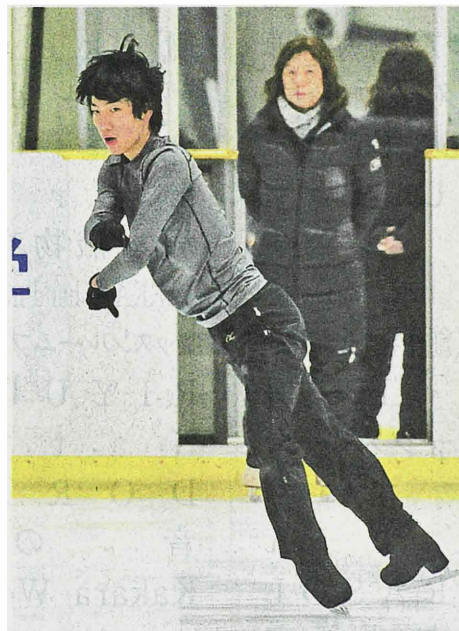


3日から西日本ジュニアフィギュア

フィギュアスケート男子の岡山のホープ三宅星南（せな）＝理大付高＝が、西日本ジュニア選手権（11月3～5日・福岡市）で今季序盤の故障からの復帰戦に臨む。五輪メダリスト高橋大輔さん（倉敷市出身）を指導した長光歌子コーチに師事する16歳。「目標の世界ジュニア選手権に向け、自信を取り戻したい」と好演技を誓う。

三宅は9月初旬、右足首の捻挫を押して臨んだジュニアグランプリ・オーストリア大会（8位）後に剥離骨折が判明。ただ、世界ジュニア（来年3月・ブルガリア）の代表選考を兼ねた西日本ジュニア、全日本ジュニア（11月24～26日・群馬県）を前にしただけは「自分の滑りを見直すきっかけ

三宅（理大付高）好演技誓う



長光歌子コーチ（右）の指導の下、練習を積む三宅星南＝関大アイスアリーナ

長光コーチに師事 故障から復帰戦

「なった」という。治療やリハビリの合間に憧れの高橋さんの演技映像を見て研究し、繊細な表現や基本のスケートティングの大切さを再確認。10月上旬に氷上練習を再開し、滑れる喜びを感じながら見せ場のステップなどに磨きをかけてきた。

昨季途中から長光コーチの下、関大アイスアリーナ（大阪府高槻市）を拠点に練習を積む。「天性の伸びのあるスケートティングが素晴らしい」と長光コーチもほれ込む逸材。時にリンクに訪れる高橋さんからも助言を受ける「夢のような環境」（三宅）で成長を続けるスケーターが、初の世界ジュニア代表入りへ再スタートを切る。

（天津雄一郎）